万年筆の秘密基地

まんねんひつ　ひみつきち

つかう

第10回 インクで広がる！万年筆の世界

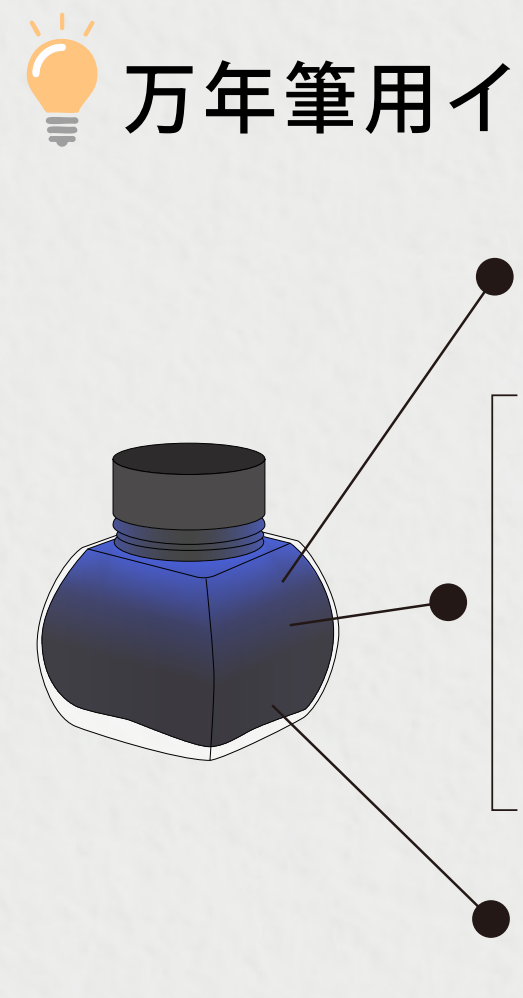
PLATINUM
CLASSIC INK
FOREST BLACK

みなさん、こんにちは。『万年筆の秘密基地』です。
今回は、万年筆と切っても切り離せない「インク」のお話しをしていきます。インクを知ると、万年筆がより面白いものになります！早速行ってみましょう。

インクって何でできているの？

万年筆用インクはその名の通り、万年筆で書くためのインクです。インク色の素となる色材をはじめ、万年筆で気持ちよく書けるよう、特別に調整されています。

万年筆用インクの成分（一例）



- **色材**…色を決める素となる材料
- **界面活性剤**…粘度などを調整する
- **pH※調整材**…インクの性質（酸／アルカリ）を安定させる
- **保湿剤**　…蒸発しないようにする
- **防腐剤**　…インクの劣化を防ぐ
- **水**

※pH…液体の酸性／アルカリ性の強さを示す基準となるもの

万年筆用インクを使うときに守っていただきたいことは、**「万年筆用インクは混ぜないこと」**です。インクを混ぜてしまうと、調整されていた成分のバランスが崩れて、インク詰まりや万年筆の部品を痛める恐れがあります。
また、当社の万年筆には、当社の純正インクをお使いください。

ただし、当社の MIXABLE INK のように、混色ができる万年筆用インクもあります。メーカーの説明書に従ってお使いください。

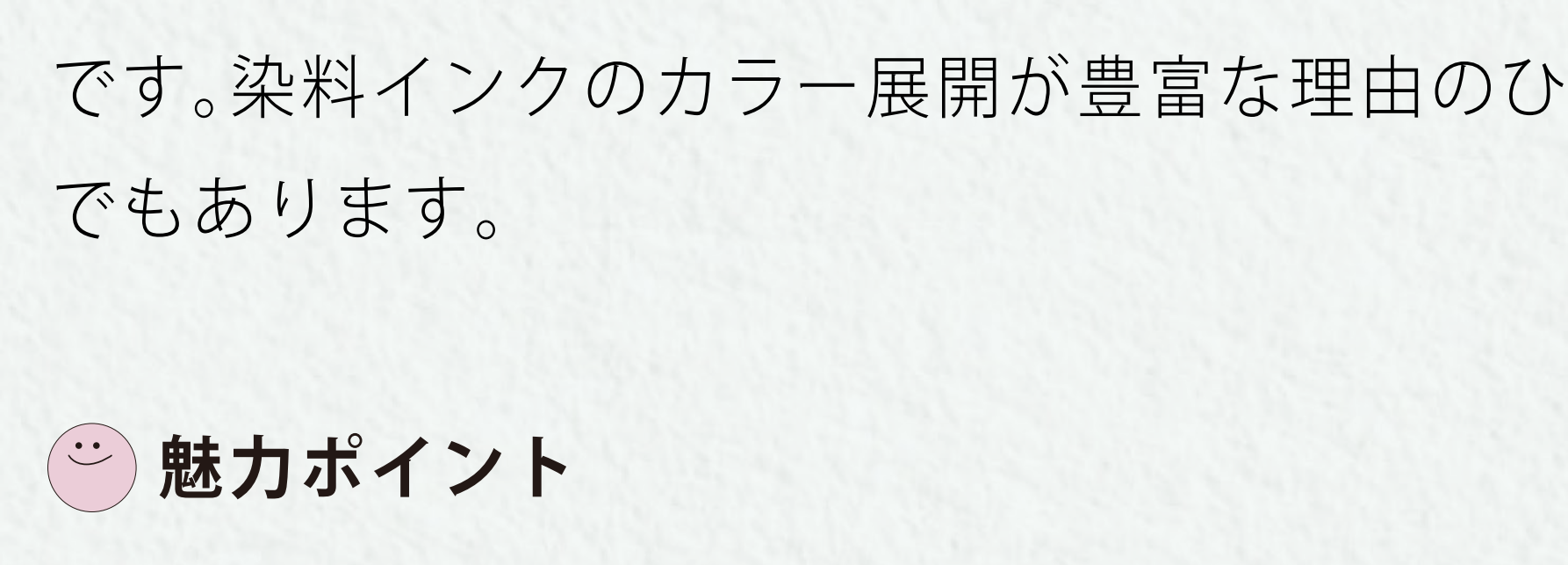
ブランド紹介ページはこちら→ MIXABLE INKとは…

万年筆用のインクは、大きく「染料」「顔料」の２種類に分かれます。今回は「染料インク」「顔料インク」、そして染料インクの中でも少し特殊な「古典インク」の特徴についてご紹介していきます！

万年筆用インクそれぞれの特徴

カラバリが豊富！

染料インク



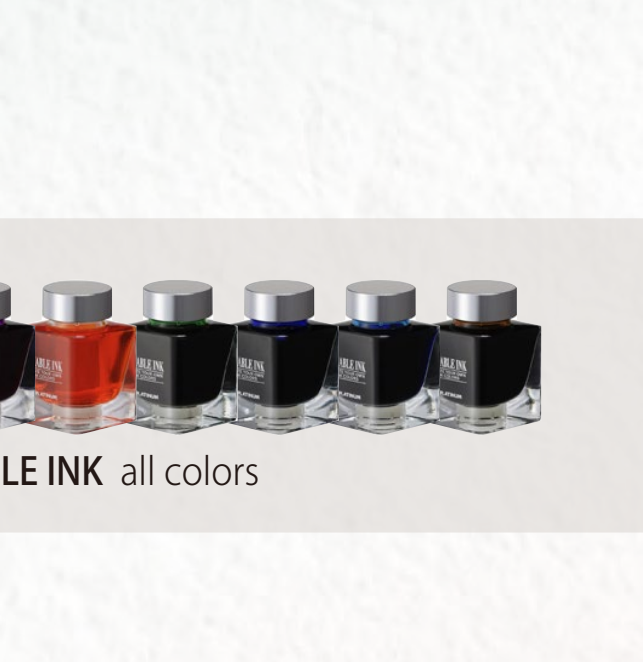
染料インクは、今日の万年筆用インクの大半を占めています。水に溶けた染料が、紙の繊維に染みこむことで色がつきます。染料は水に溶けるため、色が作りやすいです。染料インクのカラー展開が豊富な理由のひとつでもあります。

魅力ポイント

カラー展開が豊富

▲ 青や黒だけでなく、紫系などカラー展開が豊富

手入れが楽



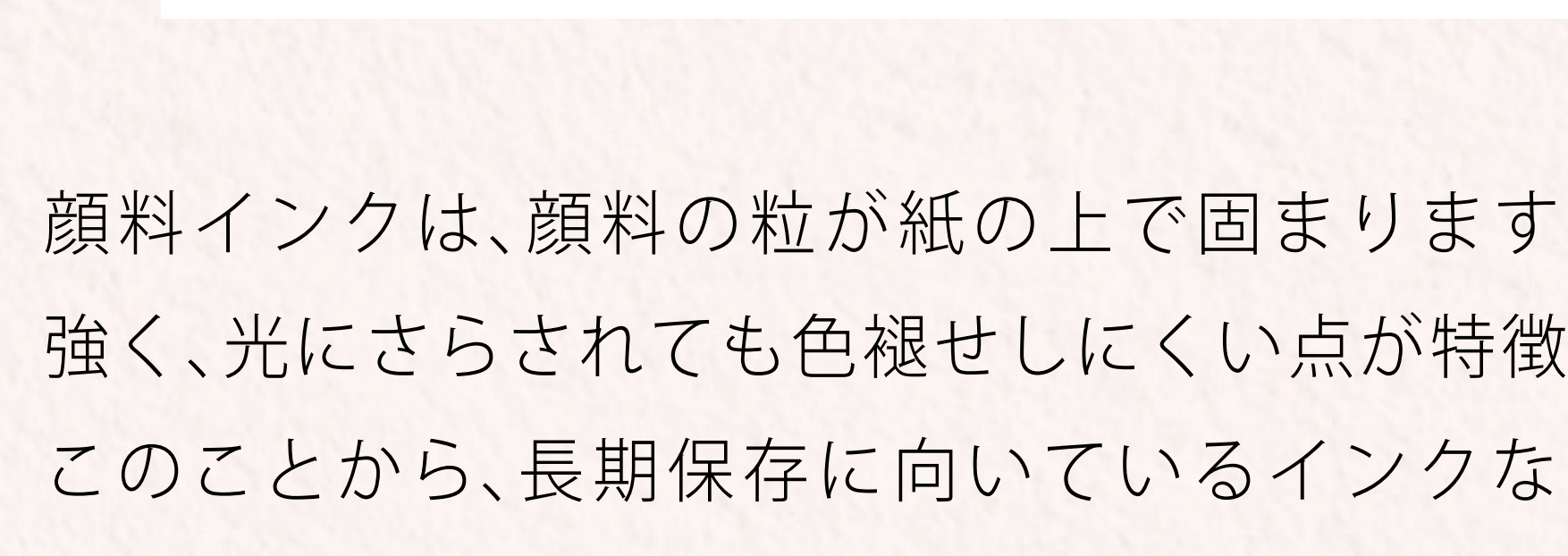
▲ 水に弱い特徴を活かし、あえて線を描いてから水で広げることも

当社のラインナップはこちら！

INK Black / Red
MIXABLE INK all colors

長期保存にばっちり！

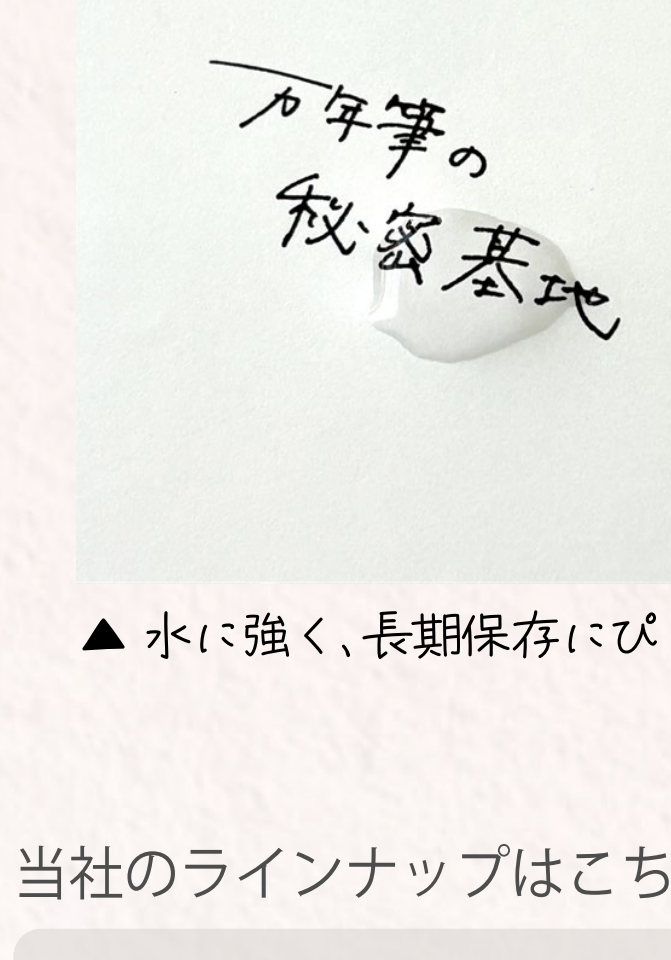
顔料インク



顔料インクは、顔料の粒が紙の上で固まります。水に強く、光にさらされても色褪せしにくい点が特徴です。このことから、長期保存に向いているインクなため、公文書だけでなく、画材としても使用されています。

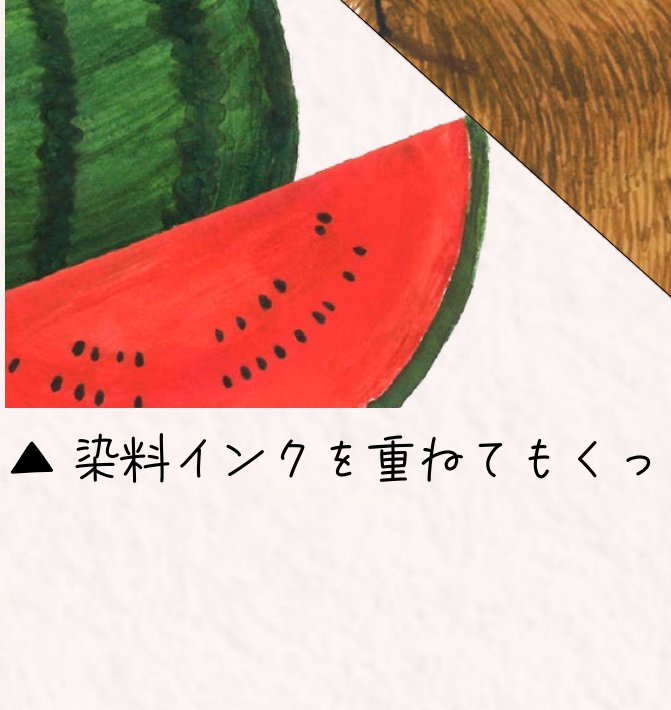
魅力ポイント

水や光に強く、色褪せしにくい



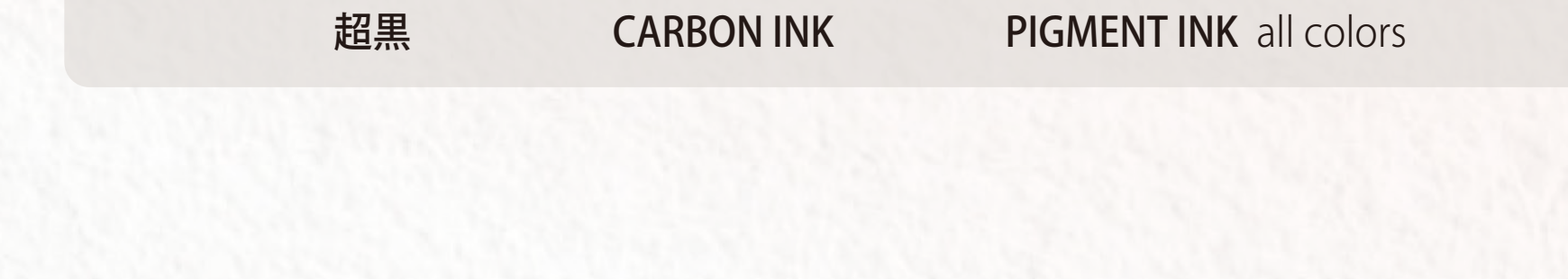
▲ 水に強く、長期保存にぴったり

くっきりした線が書ける



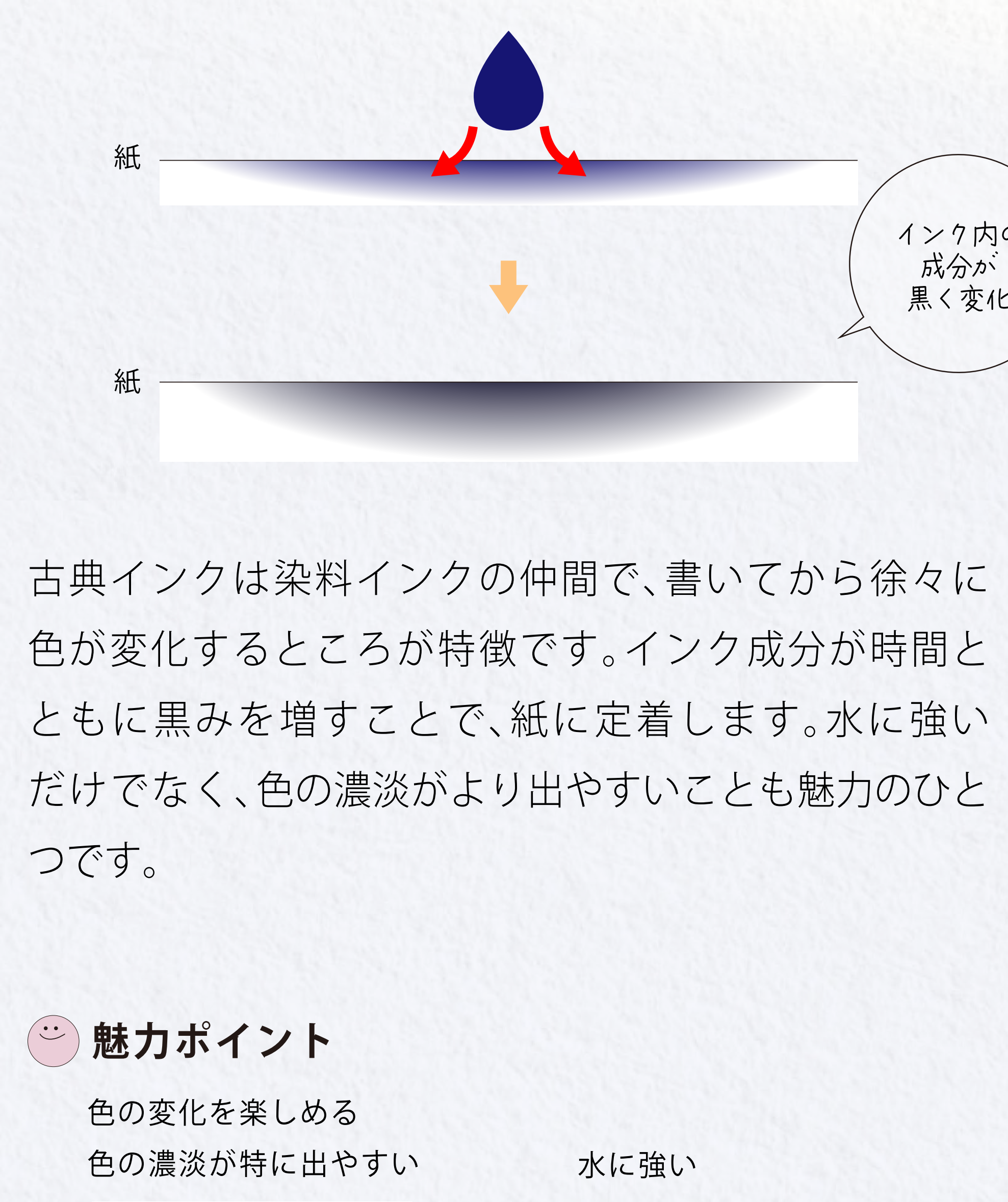
▲ 染料インクを重ねてもくっきり

当社のラインナップはこちら！



色の変化を楽しめる！

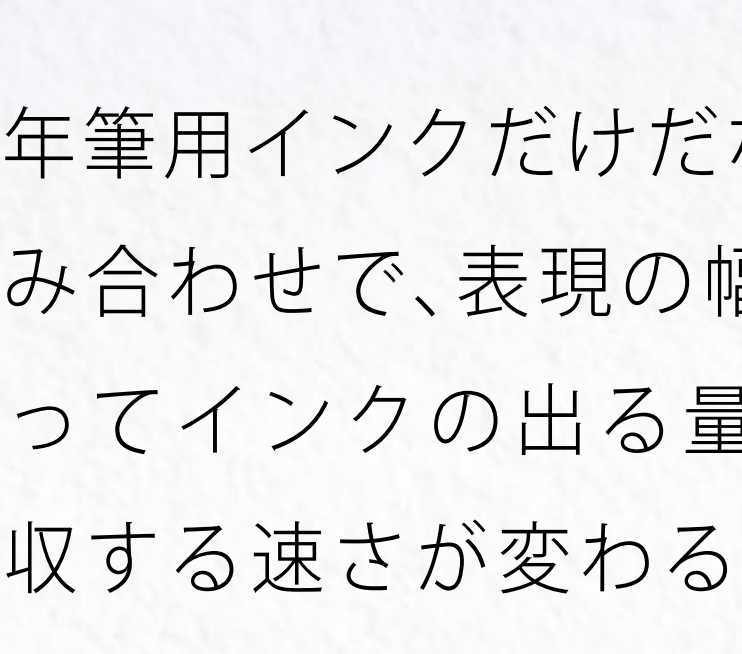
古典インク



古典インクは染料インクの仲間で、書いてから徐々に色が変化するところが特徴です。インク成分が時間とともに黒みを増すことで、紙に定着します。水に強いだけでなく、色の濃淡がより出やすいことも魅力のひとつです。

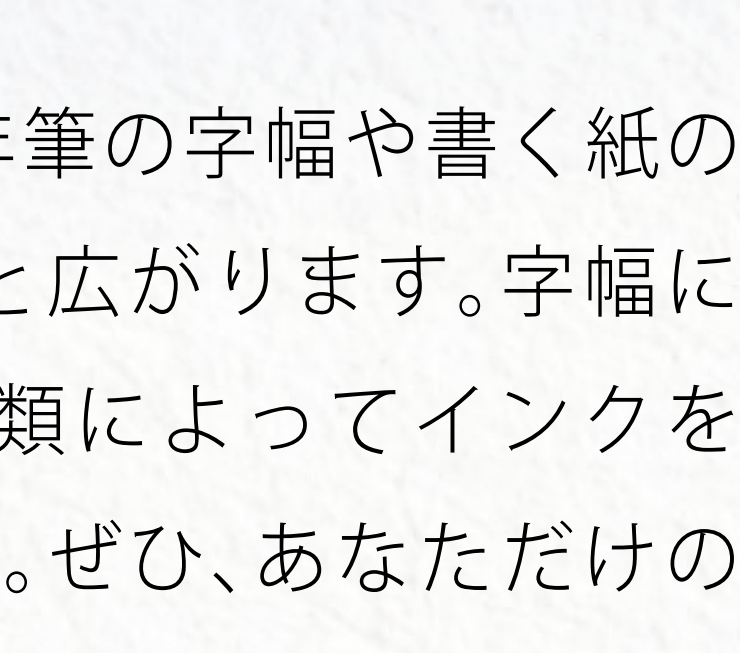
魅力ポイント

色の変化を楽しめる
色の濃淡が特に出やすい



▲ 時間が経つと黒く変化する

水に強い



▲ 染料インクと重ねて使うのも◎

当社のラインナップはこちら！

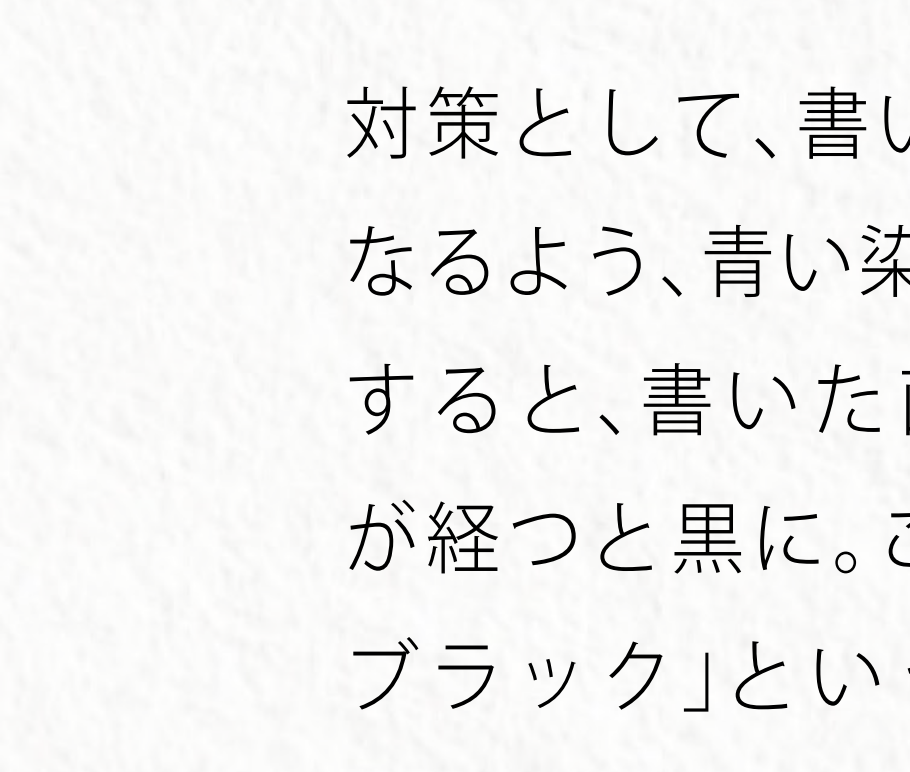
INK Blue Black
CLASSIC INK all colors

万年筆用インクだけでなく、万年筆の字幅や書く紙の組み合わせで、表現の幅がぐんと広がります。字幅によってインクの出る量、紙の種類によってインクを吸収する速さが変わるからです。ぜひ、あなただけのお気に入りの組み合わせを探してみてくださいね。

ブルーブラックインクの秘密

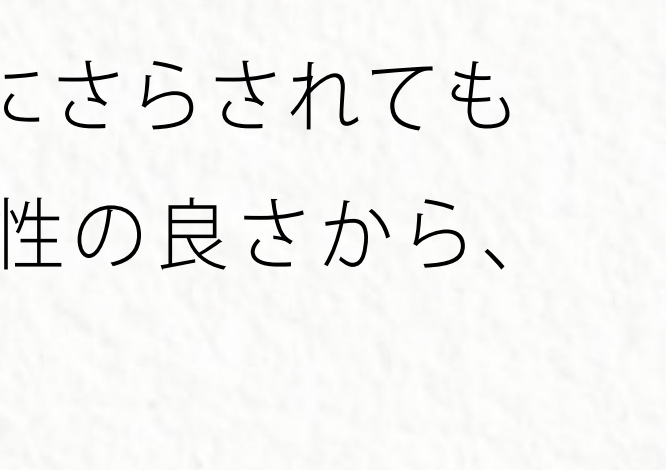
さて、万年筆インクの「ブルーブラック」は、万年筆の定番といわれていますが、なぜでしょうか？ それには実は、長い歴史が関係しています。ブルーブラックインクについて少しご紹介します。

古典インクとのつながり



中世のヨーロッパでは、「没食子インク（後の古典インク）」を使って書いていました。この頃は、書いた直後のインクが無色に近かったため、書いた線が見えづらいという問題点がありました。

ブルーブラックインクの誕生



Blue ▸▸▸ Black

対策として、書いた線が見やすくなるよう、青い染料を加えました。すると、書いた直後は青く、時間が経つと黒に。こうして、「ブルーブラック」という名前とともに、このインクが広まりました。

青と黒の中間のような色味は、ビジネスシーンにも日常使いにもぴったり。水にも強く、光にさらされても残るという特徴、そして万年筆との相性の良さから、今も定番の色として愛されています。

現代のブルーブラックインクは、染料や顔料で色味を再現する製品もあり、必ずしも古典インクとは限りません。ですが、当社含め一部のメーカーでは、伝統的なインクの製造を行っています。

「インクで広がる！ 万年筆の世界」、いかがでしたか。万年筆用のインクについて知ることで、万年筆ライフがより楽しいものになりますね。次回は、万年筆を使う際の、ちょっとしたポイントなどをご紹介します。お楽しみに！

PLATINUM
JAPAN 1919